

# 玉川学園小学部

飼育したサンゴや海藻を、海へ戻そう！（移植活動・環境学習）



玉川学園小学部正門

## 教室の海水水槽から広がる興味!

### サンゴ研究部の活動を小学部に拡大

東京都町田市の広大な敷地に立地する玉川学園小学部の2年つばき組（2023年3月取材時）では、教室の水槽で海の生物を飼育している。育てているサンゴは、同学園の中学・高等部のサンゴ研究部が沖縄県伊江島から提供を受けたもので、同部ではサンゴを株分け・育成して沖縄の海に再移植する研究を進めてきた。

中学・高等部も同じ敷地内にあるため、小学部児童もサンゴ研究部の水槽見学などを通じて知識は得ていたが、それだけでは実体験が伴わない。そこで、担当の松田裕介教諭が「学園の教育方針のひとつである『ホンモノにふれる』機会を作ろうと思いました」と言うように、毎日観察できる身近な教室に水槽を設置して、サンゴ研究部の活動の一部を低学年まで拡大したのだ。



観察水槽の前で「サンゴ」のポーズの活動メンバーと松田教諭



外部講師を招いて実習授業



サンゴカッターの体験

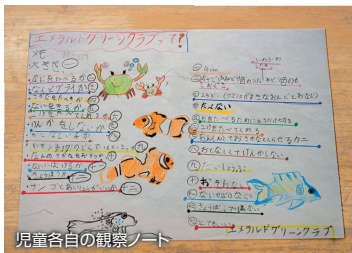
### 「ホンモノにふれる」体験を実践

普段の飼育で生物にふれるだけではなく、サンゴの白化問題では水質検査機器メーカーのプロを招いて水質管理の指導を受けたほか、水槽係の小原さん、山本悠真さん、大前結愛さんは、サンゴ研究部で電動サンゴカッターを使った株分けにも挑戦。口々に「手に伝わる振動がすごかった」と述べるなど、「ホンモノにふれる」体験をした。

今では「水槽でのサンゴの産卵に挑戦したい」（小原さん）、「自分で調べたウニなどを飼いたい」（大前さん）と、やりたいことが目白押しだ。また、海洋プラスチック問題を啓発するポスターを作った山本さんは、「もっとみんなに呼びかけたい」と環境意識が高まっている。松田教諭は、「ほかにも、大半の児童が海をテーマにした自由研究をしたり、誕生日に海水水槽を買ってもらったりした児童もいます。将来はサンゴ研究部に入りたいという言葉もうれしかったです」と、児童たちの興味の広がりを目を細めていた。（プログラム助成）



取材に対応



児童各自の観察ノート



#### ●実施担当

松田裕介 教諭

#### ●活動のモットー

年齢が上がると「こんなこと聞いてもいいのかな」というためらいが出てくるので、疑問に思うことは必ず発言するよう伝えている。

#### 学校概要



「全人教育」を教育理念の中心に「個性尊重」「自学自律」などを掲げる。幼稚園から大学・大学院まで備えた私立の総合学園。

設立：1929年

児童数：660人（Primary div. (1-5)）

所在地：東京都町田市玉川学園6-1-1

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団

〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

中谷財団

検索



シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。